

海外展開を強化 中国・アセアン・北米市場へ

ピカソ美化学 八木伸夫 研究所社長

①昨年同様に3月の決算においては通販市場を中心に二桁増という結果となった。これは弊社が推進している「売れる商品づくり」が実現できている結果と考えます。化粧品業界としては、円安の状況が続いてい

ることで、輸入原料や輸入資材の実質値上がりが続き、少人化など原価低減の必要性が課題となつています。一方、訪日外国人は増加により、日本製品の良さが再度見直され、日本製品の海外への輸出、海外企業からの引き合いは今後も増加していくと考えます。



②以前のような爆発的な伸びは収まっていますが、

やはり中国市場は大きなマーケットととらえています。また、円安の影響もあり、ASEAN市場向けの需要も高まっており、Made in JAPAN商品のASEAN向けの商品開発の企画も増加しています。そういった中国をはじめとするアジア諸国に対する営業活動や北米向けの活動を強化してまいります。

③昨年までは、本社中央

研究所、銀座研究所の拡充を行い研究体制の強化を中心に行つてまいりました。今年度は、研究所で開発した新規製剤などを形にする工場の製造装置の大型化、

新規充填設備の投資を進めております。製造設備を大型化することで大容量商品の製造コストの低減、新規充填設備を導入することで、これまで自社で生産で

できなかった商品の製造が可能になり、お得意先様のご希望に合わせた生産も可能になります。

④昨年度は二桁の売上増加を達成しておりますが、今期は昨年と同程度の売上での着地になると考えています。理由としまして、昨年は、大型の新規企画を数件獲得することができ、その売上が全体の売上増加に

少なからず影響していたためです。今年度も引き続き、「売れる商品づくり」を継続し、お得意先様の売上貢献していきたいと考えています。(原文のまま)